九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[023] 語文研究表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/10246

出版情報：語文研究. 23, 1967-02-28. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：

◇学会彙報

▼講義題目　昭和41年度第二学期

（大学院）　国語学特研（国語の変遷）　福田　教授
（大学院学部）　〃　演習（万葉集巻十九）　〃
（〃）　〃　講義（国語学概説）　〃
（〃）　〃　演習（法華修法一百座聞書抄）　春日助教授
（〃）　〃　特講（漢字音と漢語の研究）　〃
（学部）　〃　講義（国語史）　〃
（大学院）　国文学特研（近世文学観の諸問題）　中村　教授
（〃）　〃　演習（山東京伝の小説）　〃
（大学院学部）　〃　講義（近世小説史）　〃
（学部）　〃　講読（武道伝来記）　〃
（大学院）　〃　演習（江史部集）　今井助教授
（大学院学部）　〃　特講（「源氏物語」研究）　〃
（学部）　〃　演習（馬内侍集）　〃
（大学院学部）　〃　臨時講義（日本近代文学）　三好　講師

▼受贈図書　昭和41年9月～42年1月

近世文芸資料と考証　五　七人社
足利学校遺蹟図書館古書分類目録　長沢規矩也
万葉学論叢　関西大学国文学研究室
近世和歌集　久松　潜一
万葉集に於ける表現の研究　フェリス女学院大学
逐次刊行物目録昭和39年版　国立国会図書館
芭蕉翁一代風土記　飯野　哲二
戯作論　中村　幸彦
三木家俳句　人来　三木與吉郎
善本写真集26・27　天理大学図書館
玉里文庫目録　鹿児島大学附属図書館
国立国語研究所年報16　国立国語研究所
戦後の国民各層の文字生活　国立国語研究所
太宰府神社旧神官家系　棚町　知弥
訳万葉　紀国屋書店福岡営業所

▼お知らせ

「語文研究」は、昭和41年12月20日付をもって、郵政省告示第一一〇〇号により、学術刊行物に指定されましたのでお知らせ致します。

○第二十四号原稿募集

昭和四十二年五月三十一日まで
四百字詰原稿用紙三十枚程度

角川文庫「私の人生観」解説）にふさわしい。特に歴史の問題は理論化の困難を宿命として背負っている。まして小林の歴史論は記述ではない。表現である。時には歌でさえある。その鋭利直截な文体のきらめくような硬質の美しさを感ずることなくして、論理の筋だけ追うのは無意味である。

この小論は表題のごとく「ノート」であり、彼の歴史像の輪郭を私なりに納得したい欲求に駆られて書いた。この種の文として、原文の持つ生命感が分解されてしまうのは残念である。小林の文には、たけだけしい叫喚は全くないが、読むことによって生を鼓舞されるという意味で、やはり現代に於ける稀有の名文である。それは常に緊張した生命が対象に切りこむ衝撃を伝えて来るからである。

彼の眼はいつも生の根源を凝視する。人間が人間である限り生そのものの根源は時代によって変るはずがない。それ故、歴史というごとき、時代の政治の影響を最も敏感に受けるものを対象としても、その時代を超えることができた。人皆争って「真」を求めた戦後の混乱期に、彼は「美は真の母かも知れないのだ」（「モーツアルト」一九四六・昭二一）と言つている。「真」は遂に相対的なものだが、「美」とは人を沈黙させる絶対的体験である。小林のすべての評論の中に鳴り響いている主調低音は、この短い言葉の中に凝縮された思想である。

（一九六五・七・二六）

▼受贈雑誌　昭和41年7月～12月（その二）

（四一頁よりつづく）　日本文学誌要（法政大学）15、短大論叢（関東学院短大）28・29、社会科学（同志社大学人文科学研究所）3・4、東北大学教養部紀要4、日本大学人文科学研究所研究紀要8、中世文芸（広島大学中世文芸研究会）35・36、語文（日本大学国文学会）24、国語国文研究（北海道大学国文学会）33、国語学（国語学会）65・66、文化（東北大学文学部）1・2、軍記と語り物3、言語と文芸47・48、古典論叢10、国文（お茶の水女子大学国語国文学会）25、語学文学会紀要（北海道学芸大学）4、能楽思想37、音声学会会報122、

▼受贈抜刷

近松の道行（筑紫女子短大紀要1）　橘　英哲
黄表紙「黒白水鏡」評説（九州女子大学紀要）　市場直次郎
露伴の名人ものと禅―「一口剣」「五重塔」「風流仏」―　瀬里　広明
真名本伊勢物語―助動詞の表記をめぐって―　佐田　智明
（北九州大学開学二十周年記念論文集）
奈良絵本と丹緑本　天理図書館

⑫兄弟に当る文時、雅規が天元年間（九七八）～（九八三）に没していることから、善隣も、応和から安和に至る時期は、その生涯の一時期であると考えてよかろう。

⑫⑬桃裕行「上代学制の研究」

⑭吉村茂樹「国司制度崩壊に関する研究」第三章売官及び成功の制、竹内理三「成功・栄爵考」（「律令制と貴族政権II」所収）

⑮桜島忠信と名を記すのは、拾遺集と十訓抄のみで、他は「大隈守□□ト云者有ケリ」（今昔物語）「大隈守なる人」（宇治拾遺物語）大すみのかみの」（古本説話集）とだけ記すが、同内容の話であることから、大隈守とは桜島忠信を指すと考えてよい。

⑯吉村氏前掲書三五九ページ

▼受贈雑誌　昭和41年7月～12月（その一）

国語と国文学7～12月、国語国文7～9・11・12月、国文学解釈と鑑賞7～12月、11月臨、国文学解釈と教材の研究7～12月、10月臨、文学7～12月、国学院雑誌6・8月、学苑7～11月、文献ジャーナル7～11月、八雲7・8月、白路7～9・11月、日米フォーラム7・8・10・11、肇国7～11月、解釈7～11月、成城文芸43・44、名古屋大学国語国文学18、学習院大学国語国文学会誌9、人文論究（関西学院大学人文学会）15、日本文学（立教大学）16・17、近代文学研究（法政大学日本近代文学研究会）2、文芸研究（明治大学文学部）15・16、愛媛大学紀要11、岐阜大学研究報告14、国語国文学研究紀要（富山県立富山中部高校）6、九州文化史研究所紀要11、静岡女子短期大学国語国文論集2、徳島大学学芸紀要15、人文学研究所報（神奈川大学）2、国語研究（山形大学教育学部）17、女子大国文（京都女子大）41・42、朝鮮学術通報2・3、実践文学28、研究論集（別府大学）、野田文学8、万葉60・61、一橋論叢7～11、語文（大阪大学）26、香椎潟（福岡女子大学）12、国語国文学（弘前大学）1、史料と研究（古文書古記録学会）1、文芸と批評2巻1、論究日本文学（立命館大学）28、文学論藻（東洋大学）34、中央大学国文10、山口大学会誌1、国文学研究（早稲田大学）33・34、近世文芸稿（広島大学）10、日本女子大学紀要15、相模女子大学紀要24、神奈川大学人文研究34、日本文学（東京女子大学）27、人文研究（大阪市立大学）7・8・9、都立大学方言学会会報14、文学研究（九州大学文学部）63、文学論輯（九州大学教養部）13、国語研究（国学院大学）19～22、人文科学（同志社大学）1、国文学攷（広島大学）41、樟蔭国文学4、駒沢国文5、和洋国文研究4、上代文学研究会会報（東洋大学）16、方言研究年報（広島大学方言研究会）9、訓点語と訓点資料33、Language and Literature（言語と文学編集部）6、東北大学文学部研究年報16、コロニア文学1、Mourin 20、

（六三頁につづく）